

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第18回(最終回) 「那須平成の森でお待ちしております」

「那須平成の森だより」の連載も今号をもちまして最終回となります。18回にわたりお読みいただきありがとうございます。まず、これまでの号を振り返ってみたいと思います。

店するカフェのこと、那須平成の森基金について。

5人の執筆者が詳細を述べてきたつもりですが、如何せん限られた紙面の故思いが伝えきれなかったか、読者の皆さまに満足いただけたか。那須平成の森にお越しの際はどうぞご感想を聞かせていただければ幸いです。

連載期間中は、まさにコロナ禍の中。那須平成の森も幾度となく休園せざるを得ない時期がありました。そのようなか中においても那須町の学校等の皆さまがコロナ対策をしつかり取って来園されたことは感謝に堪えません。5月は那須高原小、7月は黒田原第1保育園・高久保育園、8月は那須高校、10月は高久小・大同保育園、11月は那須町立図書館。特に遠出をすることが少なかった子どもたちが、自然の中でのびのびと遊び回っている姿は、「あ、やっと当たり前が戻ってきた」と思ったものです。緊急事態宣言が解除されてからは、森を散策される大人の皆さん



「スタッフ一同で皆さまのお越しをお待ちしております」

これまで述べてまいりましたのは、那須平成の森の全体像(概要)、四季の自然、拠点であるフィールドセンターのこと、活動の目的、公募と受託の自然体験プログラム、自然環境調査、日光国立公園の歴史と那須平成の森の位置づけ、働くスタッフの声、出

も笑顔で「滝の紅葉が良かったよ」と声を掛けてくれました。人間は鬱屈した時にこそ、自然を求めているのだとつくづく感じさせてくれたコロナ禍でもありました。皮肉にも、コロナが那須平成の森の存在意義を確信させてくれました。

連載を終えるに当たり、改めて読者の皆さまへの感謝とともに、那須平成の森にお越しいただけることをお願い申し上げます。当たり前にある自然がこんなにもいとおしいものだと思われている森だと私たちは思っているからです。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

那須平成の森フィールドセンター センター長 若林正浩

かつこう

学びの森小の児童が学校で牛を飼育する様子取材しました。5年生担任の西山翔太先生は、「地域の主要な産業である酪農を調べるには、実際に牛を飼ってみるのが一番いいと思った」と言います。児童は町内の森林ノ牧場から提供された子牛に「ニコリー」と名付け、学校が休みの日も保護者と学校に来て交代で世話をしています。牛

小屋は地域の人が建てたもので、小さなパドックもあります。この日は森林ノ牧場のスタッフが学校を訪れ、牛皮を使った児童用の名札づくりを教えました。この牛皮は森林ノ牧場で飼育していた牛のもの。スタッフの丸山智子さんは、ペットと家畜の違いなどを児童と話し合ったあと、「牛の第二の人生として、みんなの手元で活躍してもらえたら」と話しました。児童は「これがニコリーの皮だった

ら・・・」それは言っちゃダメだよ」とおどけたように言いながら、少し神秘的な面持ちに。保護者、学校、地域が連携し、児童の豊かな学びを支えていると感じました(関連記事27ページ)▼間もなく新しい年を迎えます。新型コロナウイルスが終息へ向かい、児童が引き続き地域の人と交流を深め、体験を通して学ぶことができることを願います。皆さま、穏やかな新年をお迎えください。

こんにちは

赤ちゃん



令和3年7月16日生

古森 仁乃ちゃん(梁瀬) 母 美里さん

仁乃ちゃんは... 思いやりのある優しい子に育ちますように



「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 (11月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

•世帯数	10,518世帯 (+1)	出生	3人 (- 8)
•人口	24,596人 (-11)	死亡	32人 (+12)
		転入	79人 (+25)
		転出	62人 (- 10)
		その他	1人
	男 12,237人 (-10)		
	女 12,359人 (-1)		